

マインドフルネス&アクセプタンスを導入した心理療法(アメリカ)

1章	アクセプタンス・コミットメント・セラピー(ACT)	うつ病、薬物乱用、慢性疼痛、摂食障害、仕事におけるストレス
2章	弁証法的行動療法(DBT)	境界性パーソナリティ障害(BPD) 物質乱用または物質依存、無茶喰い(摂食障害)、うつ状態
3章	マインドフルネス認知療法(MBCT)	寛解期に実施するうつ病の再発予防
4章	マインドフルネス認知療法(MBCT)	全般性不安障害(GAD)
5章	機能分析的心理療法による認知療法(FECT)	うつ病
6章	価値を中心とした行動療法(VCPT) 行動活性化療法(BA)	うつ病、不安障害(パニック障害)
7章	行動活性化療法(BA)	うつ病
8章	M&Aを導入した カップル・セラピー	カップル(夫婦)における対立、うつ(暴力、攻撃、否定的態度、批判的態度)
9章	統合された行動療法(DBP, ACT, FAP の3つの統合療法)	PTSD(外傷後ストレス障害)、 トラウマ
10章	M&Aを導入した認知行動療法	全般性不安障害、パニック障害
11章	M&Aを導入したCBT-BN (CBT-BN = マニュアルに基づく認知行動療法)	摂食障害
12章	ヴィパッサナー瞑想法	アルコール依存症 薬物使用障害
13章	統合された行動的カップル・セラピー(IBCT)	カップル(夫婦)における対立

★ これは、次の文献に掲載されたもの。ヘイズ等(2005)『マインドフルネス&アクセプタンス ー認知行動療法の新たな次元ー』編著=S. C. ヘイズ、V. M. フォレット、M. M. リネハン、監修=春木豊 監訳=武藤崇、伊藤義徳、杉浦義典、ブレーン出版。

★このほかに日本で開発されたマインドフルネス「自己洞察瞑想療法」(SIMT:Self Insight Meditation Therapy)がある。